

### 3. 要約 文化政策

#### 1)あるべき性質

##### 1-1 物証と証言、信用

###### 1-1-1 事実性と価値性

物的証拠はあるのか、因果の痕跡を感覚的に確認できる事実の実証を示し、良し悪しや無罪や有罪を判定する。一方で、人が体感した事実が記憶に残り証言をもって証拠性を認める様子を生む。論理に違和感が少なくなるほど尤もである信憑が増し証言を事実性と認め判断し評価性を下す。

###### 1-1-2 直接性・間接性・信用

対象の直接的な因果と事実について、ありのまま言葉で現象を表す。

事実性：いつ、どこで、何を、だれが、どうした、動機価値観：なぜ、「証言者の生い立ち、歴史性、日常の習慣、人物の性格性質」という面が間接性に作用する。犯罪歴はあるか、真つ当な仕事に就いているか、友人や家族、職場の上司や同僚からの評判、直接と間接の因果を含め証言者の証言について、物的証拠と同様に信頼性が生まれるか。彼が言うのだから、大方、間違いはないと断定する。

物証と証言、何を信用するか、信用する側の判断基準に幅が生まれる。

物的証拠が無くても証言を信用し採用する。言葉だけでは信用できないか、誰が発する言葉か、

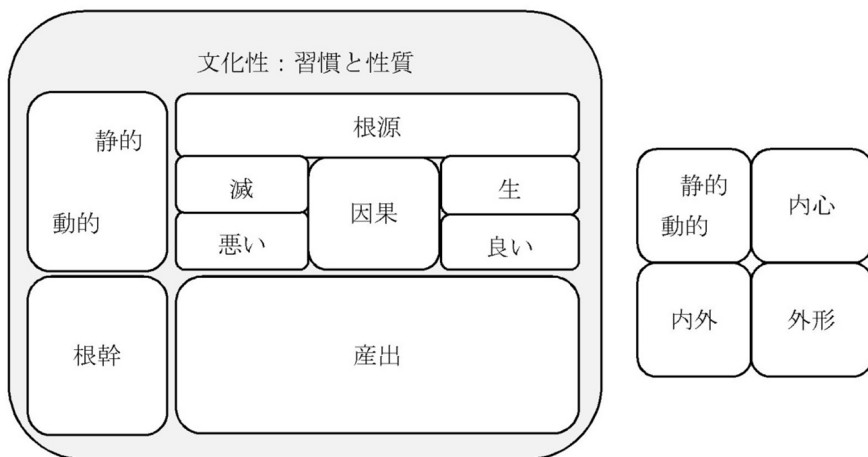
##### 1-2 習慣と性質

日頃、いい加減でどうせまた「でまかせ」でしょう。あいつは盗みをしょっちゅうやって上手く誤魔化しながら世渡りして金儲けと出世をした。繰り返して生じる発想と思考、行為の反復、習慣、性質を生む。いつも汚い手法で財や地位を得る。人の手柄を横取りピンハネする。失敗は人のせいにする。責任は免れる。良い所どり、善玉気取り、裏表の乖離が激しい二重人格、いつも真逆、長らく習慣化した性質が作り込まれる。どのような性

質が望ましいか。領域の常識や秩序に反映される。発想、思考、行為、習慣、言葉と論理形成、人柄、地域性、国柄、社会性、社会観、領域性を生む。あるべき性質、人物性人物像、抽象化された理念や理想、観念、思想性に集約される。変わることのなき定見と不動性、行動原理、思考と行為の原理性、感性と概念と精神と身体との相関、活動性、抱く領域観、世界観、個別特定全体、見識性：成長過程論、創造の包括観、動静観、世界観：技能観、産業観、社会観、自然観、生態観、活動観：行動原理行動法則、言行性、思想性：生滅、生命、人間観 勤勉、誠実、出鱈目、嘘つき、詐欺、盗み癖、暴力症、派手な衣装、成金趣味、虚栄心、ハッタリ、脅し、はぐらかし、愚図気質、受動性、自律性、人格性、局所、構造、性質、

### 1-3 理想性と現況性と方法性、理論と歴史

どのような人間の性質を理想に求めるか。良い事、悪い事、両面の因果という観点に具象化される。内心が良く見えるように言葉や概念を形成し外形性を表し内外性を作る習慣と性質を生む。理想性の観念を引き出しながら自他における明示や実践の程度に応じた相互性を生む。一方的に開示せよという態度に違和感が増す。生きた動静が作られる。理論と歴史の相関、



## 2)基礎科目性

### 2-1 民主制と専制性、民主と独裁

民主主義、一人一票の形式、実際は考えが示されそれに賛否を判断し勢力が作られる。民主が善独裁が悪という見方には短絡が生じる。良好な考えを作り、経営や政治、教育、領域と統合性、持続的な生命が生まれる。あるべき思想性と世界観を産み具体の活動性に展開される。

### 2-2 思考と概念

概念性、観測性、過不足性、評価性、施策性、検証と改善、持続、何時何処で、何を、誰が、どのように、する、した、なぜ、画一多様、分散統合、自由計画、市場法律、民公、事後事前、体と頭、

### 2-3 感性

同じような失敗を何度もやり失望させる。健全な感性があり同じ失敗をやらない反省と思考と概念を作り実践する。

### 2-4 概念と実際

概念が形骸化。実践とかけ離れている。健全な感性と精神が存在しない。分断羅列一過的、錯綜重複、意味不明支離滅裂、整合一貫、

### 2-5 問題性

概念形成上の問題、概念と運用上の問題、現象と流通上の問題、資源配分上の問題、再生産の程度に反映される、領域と持続、生の持続、一過的、短期的、やったもの勝ち、盗まれる方が悪い、まともにやるのは馬鹿らしい、モラル破綻、人間性喪失、生病理、盗み詐欺、暴行、

### 2-6 狩猟的

力をもって生や財を奪う力の支配、構造的有利と行使、暴力破壊略奪、一方向的、狩猟的、罠に嵌め獲得、力づくにより奪う、餌を与え薬漬け、慢性化習慣性、人形ロボット、一元管理の強まり格差、

## 2-7 資源流通：商品、人材、金融、情報、

天然資源の支配、希少資源、流通、人間の無機質機能化、人材派遣、貸付、利息、金融、情報統制、集計と発信、伝達、

## 2-8 形式上の標準と事実上の標準

免許、資格、制度、許認可、独占、特権、標準、規格化、市場と計画、

## 2-9 価値の序列性

階級制、身分制、学歴、偏差値、家柄、固定化、

## 2-10 動静の不良、病理性

肥満、墮落、怠慢、傲慢、歪性、不労性の所得、金利配当、無償譲渡、ストック過多フローの停滞、不透明曖昧、誤魔化し、買収、横領、金で帳消し、拝金主義、善も金で買う、

活動習慣、生物物理上の病理、寿命、エネルギー吸収の偏り、発散の不良、不健康不健全、粗末な生と負の影響、歪性の広がり領域の性格、

## 2-11 基準と運用

事前的に基準の明示、基準と公平な運用と検証、健全な創造、公平公正、公明盛大、開放と閉鎖、

## 2-12 生滅と間の因果

よく思慮の重ねられた因果の総体、生と滅の間の関係、産出と検証と改善の蓄積、完成度の高まる基準性、一面的な基準性、短絡複雑、適正要素、洗練集約性、動静の良好化に働く、

## 2-13 検証と持続性

初期審査、定期審査、監査、当事者と第三者、

## 2-14 領域の主導性、適正不適正

領域の模範、標準性、基軸性、中枢性、人的要素、理論や概念の要素、単純類型化、モデル化、個別と一般、規模の合理と画一、上部下部構造、

## 2-15 評価性

自己評価基準の整備、自律性、自制性、他者からの評価性、市場性の作用、歪んだ情報伝達、隠蔽、装飾、誘導、不公正な運用、

## 2-16 入力と産出、検証性

知の詰め込み、消化不良、意味不明な論理、必要な観点の弱さ、過大な自己評価、検証性の弱さ、活動習慣の歪性、寡占構造、特殊領域性、肥満と墮落、暴走性、

## 2-17 過程と結果性

考えを盗む。他者の考えを間借りする。右から左に流通、考えが作り出される過程の明示、これを省き、結果性に偏った因果と運用、不健全な生産性、事実上の盗み、病理質、人形、ロボット、露出と知名度、中抜き、ピンハネ、台本と読み込み、産出、

## 2-18 生命人間の真相

「民主や独裁、平等や自由、平和」などという抽象観念の理解の程度が弱いまま粗雑に用いる。自己化して消化する工程の不良、妙に頭がでかく根幹の痩せた根源の歪性。枝葉が多く適当な剪定が成されず混乱の頭にある。情緒の不安定と負の影響を招く。良いという質感や確信の弱いまま粗末な表現を示す。良好な栄養の提供よりも歪な要望を表す質実。構造に依存し優位を図る力の受動、自律や自制を欠く体質が表面化。逆に枝葉を削ぎ過ぎて頭が無く根幹が異様に短い単細胞と気まぐれの粗雑。適当な概念性が整わず即効と急進の暴走に陥る。根源の歪性を表す。同一的な不良や不健全。成長過程に疑念が増す。

## 2-19 文系と理系、基礎科目、再生

基礎づけられる観点の希薄、抽象的で意味不明な表現、文系の短所、部分的正確と最良、全体大局の喪失、理系の短所、基礎科目の不適正、入れ替え、浄化、再生、基準の再構成、生命人間観、根本性と全体大局性と個別特定性、

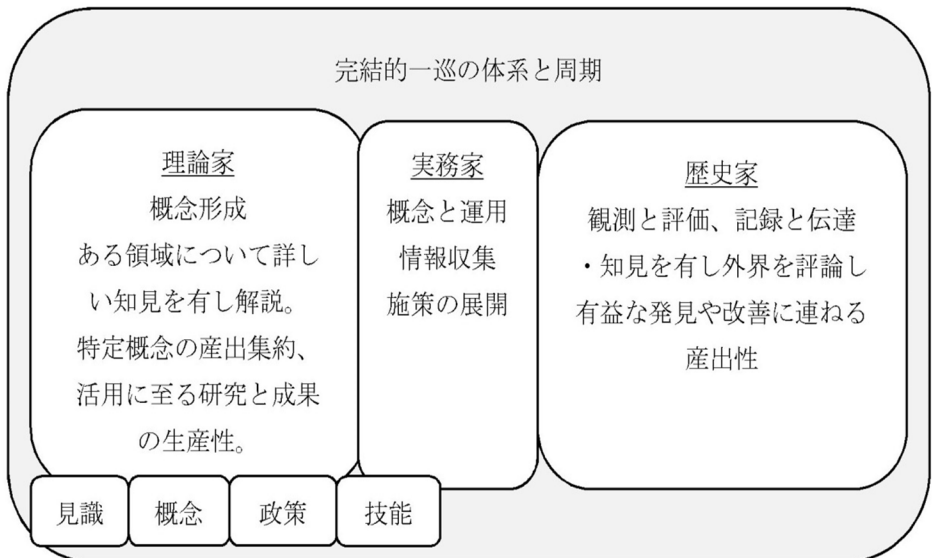
### 3)文化性

#### 3-1 健全な自立と協業の関係性

学者の見解を紹介する行為が見られる。無限から有限を特定し価値を表し一定の付加価値を伝える。多くの見識や概念、考え方に触れ一つの集約に及ばせる産出にオリジナル性を産む。実務者になるほどそうか、用いられ実世界との関わりが増す。特定研究の業績と評される。〇〇学の専門と名乗るに際し集約的持論を整備し領域を認識する。

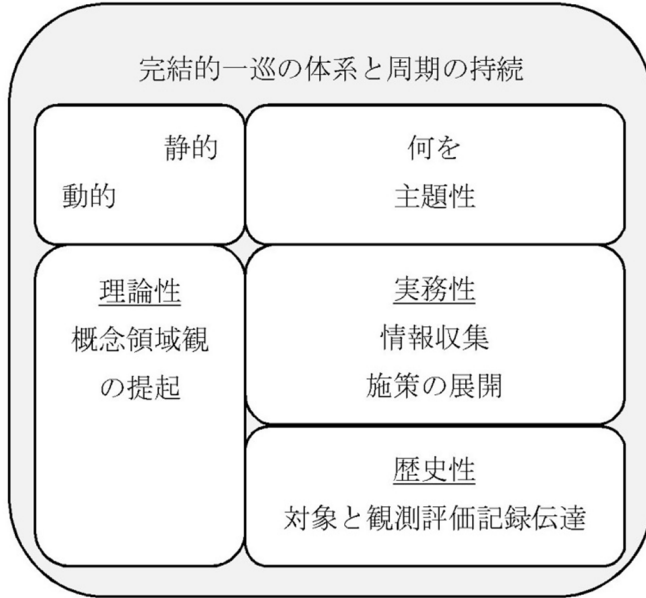
数多くの知識量を評価する要素と共に集約と産出の要素があり、健全な活動性を生む。産出と検証と改善の根幹を内蔵し正常な生を映す。自己評価基準とメリハリのあるエネルギーの投入と成果を問う緊張性を生む。「概念領域観の形成、規格の導出」などという産出を付加価値にする生産領域一般の標準観を産む。ある領域の詳しい知見を有し解説する。知見を有し観測評論し有益な発見や改善に連ねる。特定概念の産出集約と活用に至る研究と成果の生産性。概念形成、概念と運用、観測と評価、記録と伝達、理論家、実務家、歴史家、三者の要素を併せ一巡的完結の体系と周期を生む。いずれも実務性を含む。

概ね3つ程度の性格と特徴を生む。



### 3-2 静的動的分化と統合

何をという主題の質量が大きくなるほどにできる限界を知る。静的概念構成における分化と統合と、理論と実務と歴史の動態性における分化と統合に回る一巡の完結の体系と周期に健全な自立と協業の社会性と領域性、生命力を生む。



### 3-3 流通性、歴史家

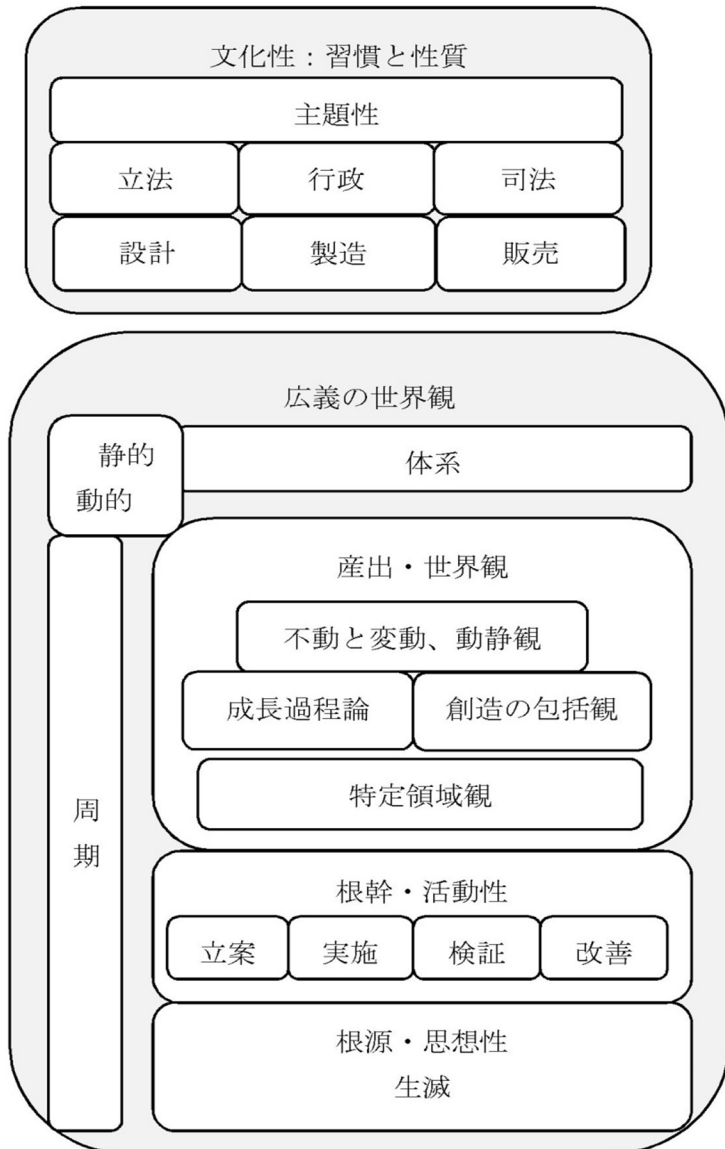
構造的優位と力への依存を強め対象の流通を行う性格と一定の見識性や概念性、領域観と世界観を整備し事前的な基準性を確立し選定と観測と評価と伝達を図る流通性にはだいぶ質的な相違が生まれる。

前者の性格に過度な技術力や財力、権限を与えることのなき制御性が図られる。粗末な政治屋、ブローカー、中抜き屋、盗みと暴力、犯罪性を帯びる。悪性の手法をもって財を盗む病理。取り締まりの対象。

### 3-4 抽象概念と活用的一般原理

「実務経験が有るか」という質問が見られる。実務とは何か、認識を整理し事前的に明示するのが健全な質問の在り方。抽象性の概念を用いるにお

いて共通原理を生む。あまり粗末な現象を予防する観点を生む。「開かれた領域」という抽象観念を掲げる。健全な文化観に具象化される。力の支配性が強まることのなき健全な活動習慣と性質の同一を求める。何をという主題性とどのようにという方法性が混合し、意味不明、論旨の不明瞭は理解と納得と共感と現象が進みづらい。



生の健全と持続

成長過程論：萌芽・成長・安定・衰退・成熟

春夏秋冬

動的	静的		体系				
	感性	概念	精神	身体			
広がり	抽象	神仏人間	仏性 人間性 神性				
		動静観	静態と動態と動静、不動と変動、因果、縁起				
		理念祈願	安全安定安心 健康健全持続 繁栄成長自由				
		領域観	思想性と活動性と世界観、体系と周期と持続 創造の包括観、成長過程論				
		生態観	根源と根幹と産出、周期と体系と持続 生命と創造と社会と自然と生態				
	準抽象	特定・専門・個別	社会観	宗教哲学、教育経済、政治、産業、科学技術、家族個々人家族、事業体、地域、			内外性
		自然観	気候、地形、動植物、気体と固体と液体、 感性、生物、物理、精神				
		市場と計画	市場：需給、慣習	法律：立法と行政と司法			
		技術・産業	個別特定の技術、産業化、				
	標準	具象	日常観 根幹・定常	健康、言葉収支、慣習、法制度、衣食住 基準性、対象選定、観測評価予測、施策検証、改善持続			内面・内心
土台			現象観	なぜ、何時何処で、何を、誰が、 どのように、する、した			
		学問観	倫理道德、国語算数、社会、理科				
		学術観	心理情動、言葉概念思考、生物物理				
		人間観	哲学と科学と技術、あるべき、ある、する				
		生産観	再生産と持続性				
		根本性	根幹性	感性と概念と精神と身体、慣習と性質			
根源性			滅の出現 両面の因果 生の増進 平等の感性				
深まり	根本性						